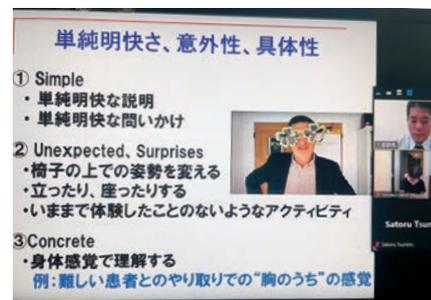




ホスピス財団 第5回国際セミナー開催

マインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和

- ◆ 講師 Stepfan Liben教授 (MaGill大学医学部)
- ◆ 実施日 2022年9月17日(土) 14時~16時30分(Web開催)
- ◆ 講演1 「マインドフルネスにある医療実践の教育
:教えるのではなく、気づくようにする」
"Mindful Medical Practice Teaching: Show, Don't Tell"
- ◆ 講演2 「マインドフルネスにある医療実践の教育
:実感することから実践することへ」
"Mindful Medical Practice Teaching
: From Realizing to Actualizing"
- ◆ 進行解説 恒藤暁教授(京都大学医学部附属病院 緩和医療科)
土屋静馬准教授(昭和大学 医学教育学講座)
三好智子准教授
(岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科くらしき総合診療医学教育講座)



第5回国際オンライン セミナーに参加して

昭和大学 保健医療学部 看護学科 講師 ^{あまね}大滝 周



マギル大学のStephen Liben教授による国際オンラインセミナーに参加させていただきました。

講演1ではマギル大学医学部生2年生が受講するコース(必修:全7回)が紹介されました。コースは、受け身ではなく学生さん自身が今この瞬間に体験していることに注意を向けることができるように構成されています。コースにはガイドがあり教員らはガイドに沿って進めます。またこのコースで学んだことを忘れないアイデアの要素[SUCCES: Simple/Unexpected/Concrete/Credible/Emotional/Stories]が紹介されました。

講演2ではLiben先生のご経験を織り交ぜながら「苦悩への応答」について話されました。苦悩する患者との向き合うための準備、反応ではなく応答するための準備として、正式な気づき[瞑想やボディースキャン]や日常的な気づき[STOP: Stop-Take a breath-Observe-Proceedや日頃の手指衛生]の演習が紹介されました。

ご講演を通して、コースでは教えるのではなく気づけるようにすること、教えるのではなく一緒に行うことが重要であると述べられていました。

ふと、学生時の体験を思い出しました。患者さんのカルテに書きなぐられた“余命4ヶ月”の文字を見た瞬間涙が溢れました。徐々に悪化する呼吸状態でも、患者さんはいつも笑顔で「ここに座って」と。本当にここにいてよいのかと自問自答の毎日でした。実習終了日、奥さんがこっそり「夫がそばにいてくれてよかったと言ってたわ」と教えてくれました。嬉しかった反面、今でも本当によかったのだろうかと思います。しかしご講演を聞き、学生だった私はきっと何かに気づき、その時をあるがまま受け入れ、患者さんとともに存在することができたのではないかと感じました。

多くの医療従事者や学生さんたちは似たような思いを抱いたことがあるのではないのでしょうか。より多く人がこのコースを受講できたら、もっと患者さんの何かに気づき、深く考えることへと繋がるのではないかと思います。もっと多くの方がWhole Person Careに出会うチャンスが訪れることを期待しています。

ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

講演と参加者間の交流

- ◆ 日時: 2022年7月22日(金) 13:30~15:30
- ◆ 場所: 大阪府社会福祉会館402号
(会場とオンラインを併用して開催)
- ◆ 参加者: 60名(会場12名、Zoom 参加48名)
- ◆ 講演: この瞬間を笑顔に!
「横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち」
ーこどもホスピス設立にかける想いー
- ◆ 講師: 田川尚登氏
認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト
代表理事



「ホスピス・緩和ケア ボランティア研修会」 感想文

日本病院ボランティア協会 理事 松本 勉



今回の田川さんの講演をお聴きして、こどもホスピスに対する眼が開かれた思いがしました。

今から24年前、田川さんの次女はるかさんが6歳の時に、悪性の脳腫瘍で治療方法もなく余命半年と宣告されました。その時に主治医から「残された時間を家族で楽しむことです」と言われ、普通の日常に幸福がある事を痛感されました。

その後、日本の小児緩和ケア活動の評価はレベル3であり、欧米先進国のレベル4に比べ劣っている事を知り、こどもホスピス設立への長い地道な活動が始まりました。

徐々に周囲の理解と協力を得て、賛同して頂く人々や会社が増え、横浜市の協力も得て、2021年11月に日本で2番目のこどもホスピスとして「うみとそらのおうち」が完成しまし

た。早速12月のクリスマスから運用が始まり、施設を利用するこどもや家族の、楽しいひと時を過ごしている姿や笑顔を映像で見て、素晴らしい施設が出来たことに感動しました。

横浜こどもホスピスの設立は資金集めや土地の確保など、うまく行った例です。現在、全国各地でこどもホスピス設立に向けた活動が行われていますが、設立資金が集まらないと言う事が一番の課題となっています。

横浜こどもホスピスでは、登録されているボランティアの方が200名位おられ、清掃と植栽、裁縫やイベントのお手伝い等の活動をされています。

最後に、田川さんに地域との繋がりについて質問した所、「こどもホスピスは、医療・福祉・教育のはざまにいる子供と家族を孤独から守るために、地域と家族を繋げて行く事を大切に考えています」との回答を頂きました。



「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査2022」が9月に実施され、現在解析中です。前回(2018年)に比べて新しい調査項目も加わりました。ご期待ください。

近刊紹介

ステージ4の緩和ケア医が実践する がんを悪化させない試み

ふみお
山崎章郎著

新潮選書 1350円(税別) 2022年6月刊

日本における緩和医療のリーダー格とも言える山崎章郎氏は、大腸がんステージ4を宣告され抗がん剤治療に苦しんだという自らのがん体験がきっかけとなり、何とか別の方法で延命できないかと試行錯誤し、たどり着いたのが「がん共存療法」という新しい試みであった。

それは抗がん剤を主体とした標準治療ではなく、また、巷に多くある健康食品や民間療法とも異なる、氏自らが実験台となって編み出された「ケトン食+クエン酸療法+α」という方法であり、基本となる考え方は、「がんが存在していても、増殖しなければ、すぐに命に関わることではない」という、がんの増殖を抑える方法である。

がんは消えて無くなるのが理想ではあるが、そのために耐えがたい苦痛を強いられるよりは、苦痛がなく、手軽でしかも安価であるという「がん共存療法」は、抗がん剤で苦しんでいる多くのがん患者にとってだけでなく、その家族にも大きな救いになりうるかも知れない。

何よりも、この方法を考案した山崎氏は、長年にわたり多くのがん患者と接してこられた現役の緩和医療医であることが、大きな信頼を得るのではと思われるのである。一読して一病息災という言葉を思い浮かべたが、本書ががん患者とその家族へ希望を与える新しい光となることを願いたい。



お知らせコーナー

- 第6会WPC研究会
医療における
“癒し”とレジリエンス
11月19日(土)
13:30~16:30
詳細はホームページで



- 『Whole Person Care教育編』
発売中

『Whole Person Care 実践編』に続き、シリーズ第2弾として出版されました。

- ▶訳者：土屋静馬氏
三好智子氏
- ▶監訳：恒藤 暁氏
- ▶発行者：三輪書店
- ▶発売：ホスピス財団
- ▶売価：2000円+税



- 医療2022年度
調査・研究助成金、募集中
募集要領はホームページをご覧ください。



詳細はホスピス財団ホームページ

こんにちは
ホスピス

岐北厚生病院(岐阜県山県市)の紹介

JA 岐阜厚生連 岐北厚生病院 緩和ケアセンター センター長 西村 幸祐

当院は市街地と山間部の間にある“農協の”病院で、その6階が緩和ケア病棟(28床、全個室、無料14室、個室代3850円/日、入院料は2を算定)になっています。開設され10年目を迎えています。

コロナ禍が続き、ご家族・友人との触れ合いが如何に患者さんに癒しをもたらしていたのか、思い知らされました。長く批判されている「単なる『がん終末期病棟』になり果てた緩和ケア病棟」のそしりを甘んじて受けねばならないほど、かつてのホスピスとは隔世の感のあるこの3年です。しかし、目前に苦悩を抱えた方がいらっしゃれば、今、ここで、我々でできることをささやかでも続けよう、とスタッフは頑張っています。時代が変わり、スタッフも、考えも変わっていきます。一方、ホスピスマインドという変わってはいけないものがあります。その瞬間(とき)に「心を込める」



ミニミニ夏祭りで“かき氷回診”



“味噌汁回診”(アツアツの味噌汁をもって回診)



～音だけオトドケ～ボランティアさんによる安らぎタイム

ことは、コロナ禍であっても、時短の時代であっても、スタッフが足りなかつたりどんどん入れ替わったりしても、経営が成り立つ成り立たないで軋轢があっても可能はずです。とはいえ、実際はいつも悩みながら、汗と涙にまみれ中途半端にぶら下がりながら活動しています。最近、悩みのないホスピスなんてホスピスじゃないと思うようになり、少し腹が座った気がしました。

余談ですが、「涙」という漢字は流す滴(しずく)が心を取り戻す(戻して)してくれる、という意味なんだ、と初めて気づきました。

ホスピス財団 2022年度 事業進捗状況報告

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募）…進行中
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・2年目）…進行中
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2023』…進行中
4. 救急・集中治療における緩和ケアの推進 4年目…進行中
5. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査（第5回目）…進行中
6. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
 - ①日 時：2022年7月22日（金）
 - ②場 所：大阪社会福祉会館とオンライン（ZOOM）
 - ③講 師：田川 尚登氏
7. 『Whole Person Care理論編』発行事業…進行中
8. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業…Webを活用して進行中
9. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者を対象とした意思決定支援に関する研修セミナーの開催…延期予定
10. 一般広報活動事業
11. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
12. International Congress on Palliative Care参加
 - ①日 時：2022年10月
 - ②場 所：モントリオール（カナダ）
13. ホスピス財団 第5回 国際セミナー開催事業
 - ①日 時：2022年9月17日（土）
 - ②講 師：Stephen Liben先生 McGill大学
14. APHN関連事業
…進行中
15. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア 第4期共同研究事業（3年計画の1年目）…進行中



ホスピス財団 2021年度(第22期) 決算の概要

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2021年度決算
【経常収益】	
①基本財産運用益	9,361
②受取寄付金	20,116
(内訳) 賛助会費収入	17,660
一般寄付金収入	2,456
③雑収益等	887
経常収益計 (A)	30,364
【経常費用】	
①事業運営費	27,706
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	5,103
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	11,499
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	5,397
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	5,707
②一般管理費	5,192
経常費用計 (B)	32,898
当期経常増減額 (A - B)	▲2,534

寄付者一覧

(2022年3月～2022年8月 順不同、敬称略)

(個人)

柏木哲夫、竹下淳也、幸地竜希、匿名1名

新規賛助会員

(2022年3月～2022年8月 順不同、敬称略)

(団体)

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション
淀川キリスト教病院

(個人)

横川るみ

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として**相続税の非課税財産**となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

06-6375-7255 です。

編集後記

実りの秋、収穫の秋ではあるが、残念

ながら当財団にとっては、コロナ禍により、十分な調査・研究が叶わず収穫が十分に得られない年になりそうである。高齢化社会と共に、がん罹患者はますます増加し、ホスピス緩和ケアのより一層の充実が望まれているが、当財団の主要事業である「遺族によるホスピス緩和ケアの質の評価に関する研究 (J-HOPE)」は家族と患者の面会が制限されることにより進捗が遅れているほか、足踏み状態の事業もいくつかある。このような中ではあるが、「救急・集中治療における緩和ケアの推進事業」や、5年振りに実施される「ホスピス緩和に関する意識調査」が進行中であり、新しい知見が得られることを期待する昨今である。

(編集子)